

保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

目 的 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

- 成 果**
1. ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究
 - ア) 煉瓦造寺院の外壁調査と保存修復方法の研究 (2016(平成28)年7月18日～29日、2017(平成29)年2月5日～21日)
 - イ) 壁画の地震被害に関する緊急調査
2016(平成28)年8月24日に発生した地震により被害を受けた壁画の被災状況調査の実施 (2016(平成28)年9月24日～30日)
 - ウ) パガン王朝期における壁画技法と画像学に関する調査 (2017(平成29)年2月9日～14日)
 2. ミャンマーの伝統的漆工技術保存のための研修ワークショップの開催 (2017(平成29)年2月6日～8日)
 3. トルコ共和国における壁画の保存管理体制構築に向けた人材育成事業
 - ア) 事業の趣旨説明を含む下記の現地カウンターパートとの合同セミナーの開催
ガーズィ大学芸術学部文化財保存修復学科 (2016(平成28)年10月31日)
トルコ共和国文化観光省文化遺産博物館総局 (2016(平成28)年11月1日)
トルコ共和国文化観光省ネヴシエヒル保存修復センター (2016(平成28)年11月3日)
 - イ) トルコ共和国における壁画の保全状態に関する視察調査 (2016(平成28)年11月3日～13日)
 - ウ) 博物館関係者および保存修復士への聞き取り調査 (2016(平成28)年11月3日～13日)

- 発 表**
- ・前川佳文：「バガン遺跡煉瓦造建造物外壁の保存修復について」ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局バガン支局 16.7.27
 - ・増淵麻里耶：「東京文化財研究所のユーラシア東部における過去の壁画事業とカッパドキアでの事業の構想について」ガーズィ大学／東京文化財研究所合同セミナー 16.10.31
 - ・前川佳文：「トルコでの壁画保存事業計画について」ガーズィ大学／東京文化財研究所合同セミナー 16.10.31

- 刊行物**
- ・『ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究 平成28年度成果報告書』東京文化財研究所 17.3
 - ・『トルコ共和国における壁画技法と保存管理体制に関する報告 平成28年度成果報告書』東京文化財研究所 17.3

研究組織 ○中山俊介、前川佳文、増淵麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、鴨原由美(保存科学研究センター)